

第 57 回日本臨床細胞学会総会（春期大会）ならびに The 19th International Congress of Cytology（ICC2016）を開催して

第 57 回日本臨床細胞学会総会（春期大会）（2016 年 5 月 27 日～5 月 29 日）ならびに The 19th International Congress of Cytology（ICC2016）（2016 年 5 月 28 日～6 月 1 日）の開催をご報告いたします。両学会を併せますと計 6 日間にわたる長期開催であり、理事会やプログラム委員会を始め関係者の皆様には多大なるご協力をいただきましたことを感謝申し上げます。海外からは計 65 か国より 728 名の方が来日され、国内からは 5,000 名を超える皆様にご参加いただき、予想をはるかに上回る方々にお越しいただきましたことは望外の喜びであります。パシフィコ横浜および周辺の会場を駆使いたしましたが、一部にキャパシティーを超えることもあり、ご不自由をお掛けしたことを心よりお詫び申し上げます。演題総数は両会を合わせ 1040 題と空前の演題数でした。今回のテーマを『 **New Innovative Technologies Changing Cytology** 』と銘打っておりましたが、まさにこのテーマが実践されたと考えております。国際学会との併催により本邦の素晴らしい技術、知識が世界に向けて発信されるとともに、海外からも本邦の未来につながる新たな知見を得ることができました。この学会が一つのターニングポイントとなって次の学術集会に発展していくことを切に願っております。

今回の ICC2016 の閉会とともに母体である国際細胞学会 The International Academy of Cytology（IAC）の新理事長に長村義之先生が着任されました。ICC2016 の閉会式におきまして前理事長から長村新理事長への引継ぎの儀式も執り行われました。長い IAC の歴史の中で日本人理事長の誕生は初めての快挙であり、今後 IAC の飛躍が大いに期待されるとともに、本邦とのより強固な関係の構築が望まれるところであります。

第 57 回日本臨床細胞学会総会（春期大会）
The 19th International Congress of Cytology
会長（Congress President） 青木 大輔